

# シミュレーションの進め方について

(複数のシミュレーションツールを駆使して今後考えられる対策の有効性を確認するために)

2018年10月9日

## 【シミュレーションの位置付け】

- 3月6日の地震発生（3時7分）からブラックアウト（3時25分）に至るまでの間に起きた事象をシミュレーションにより再現し、その再現結果から事象や前提を変えることにより、今後考えられる対策の有効性を検証するためのもの。

## 【シミュレーションの進め方】

- ① シミュレーションは、国等において今回のブラックアウトを踏まえた対策の詳細検討の早期開始を可能とするため、短期間（3か月程度）で可能であることを前提に、検証委員会事務局（広域機関）が様々な方法を駆使して行うこととしてはどうか。シミュレーションツールとしては、汎用ソフトであるMATLAB/Simulink（※）などが考えられる。  
※MATLAB/Simulinkを用いたシミュレーションモデルとしては、例えば、電気学会技術報告第1386号に掲載されている「電力需給・周波数シミュレーション標準解析モデル」のAGC（自動発電機制御）30モデルがある。
- ② シミュレーションの実施にあたっては、電力システムの解析に関する深い知見を有する電力中央研究所（電中研）に協力を求めることとしてはどうか。
- ③ 併せて、上記シミュレーション結果と比較評価するため、あるいは上記シミュレーションでは事象や前提を変えることに対応できない場合の備えとするため、東日本大震災直後の事故分析など大規模系統擾乱時の周波数解析の実務経験を有する東京電力P Gなどの一般送配電事業者に対して、解析面の協力を求めることとしてはどうか。